

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1

電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427

ホームページ http://myojyujori.jp

無縁社会と寺縁その25

1月17日、神戸市本光院において、法華宗並びに法華宗神戸組寺主催による阪神淡路大震災第二十三回忌法要が厳かに執り行われました。

法要後の挨拶において、会場寺院である本光院住職藤村泰介上人は、訥々と語られました。

前日の準備において、花屋さんが生花を持参したとき、支払いをしようとしたところ、「皆様方で震災供養されるお代など頂けるわけがありません」と。

そして、藤村上人御自身も、22年前のあの日その時を振り返られ、「地震発生時、御母堂と普段は一階にいらるところ、たまたま二階にいて難を逃れ助かったこの生命。他方ではたまたまその日その時にそこに居て命を落とされた多くの生命があったと言っことに外ならない」と述べられました。

藤村上人は、たまたま助かった自分の命と、たまたま亡くなった幾多の命を惟うとき、「合掌してお題目を唱え、それらの命に向き合い回向すること、これが自分のせめてもの行いである」と述べられたのでした。

このお話を伺い、胸が熱くなるとともに、悲運に見舞われた方々への回向がいかに大切であり、必要であるかをあらためて思い至った次第でありました。

3月11日には、東日本大震災第七回忌を迎えます。我々の出来得ること、なすべきことは、お題目をもって回向し、あるいは、写経を行い、さらに力あらば、未だに困難中にある方に幾つかの方法で支援することだと思えます。

3月11日、共に仏壇に向かい、合掌、お題目を唱えたいと思います。

鴉 鵲

箱 伊東深木画
水彩 (55×33cm)

教師養成特別講習会を受講して

当住上人徒弟 中村法孝



大本山鷲山寺のご本尊の前で

此の度ご住職のお勧めで、宗務院が4年毎に開催する「第17回教師養成特別講習会」を受講させていただき、大本山鷲山寺（千葉県）、大本山本興寺（兵庫県）、大本山光長寺（静岡県）を道場とした講習会を無事満了いたしました。

それぞれの道場での講習会は、受講生が大部屋で寝食を共にし、朝5時起床、ご本堂の清掃後、6時からの朝勤行（ごんぎょう）に始まり、日中は法華経や日蓮聖人の教え、また書道などの勉強。夕食後は法要実習など、就寝する23時まで休む間もない生活が6日間続く。半径200メートル程度の空間の中で、俗世間から一切隔離された、これまで経験したことのない日々でした。

講習会・ご修行で強く印象に残るのは、大本山本興寺での「唱題行」。門祖日隆聖人の御木像（重文）が安置された開山堂（重文）で、蠟燭の明かりだけの薄暗い中、2時間にわり正座をしてただ一向お題目をお唱えする。脚が痺れることも忘れ、充実感で満たされていく不思議な体験であり、11名の受講生とは同期の絆も生まれ、生涯忘れ得ぬものでありました。



学林の御宝前での夕勤

寺日記

てらにつき

●1月1日 元旦国持会

午前5時より恒例の元旦国持会が厳肅に奉修され、寺内各所回向の後、墓所の宗祖報恩塔はじめ、墓所各所を巡拝いたしました。二が日延べ500余名の方々にご参拝いただきました。

元旦夕暮れの5時、玄関前
樹上に烏が飛来しました

●1月8日 永隆寺大黒祈禱会・落語会

当山相談役木下信隆上人ご住職の永隆寺において、午前の初詣大黒祈願会に続き、三遊亭鳳楽師匠による落語会が和やかに開催されました。なお、師匠は昭和の名人、故・六代目圓生初孫弟子にあたり、その六代目圓生が同寺に眠られております。

●1月14日 正隆会初題目・東日本大震災追悼写経会

●1月14日 江戸千家初釜式 於 本郷弥生町

●1月15日 年頭会法要・総代会・役員婦人会総会・新年会（写真）

●1月16日 全仏阪神淡路大震災第二十三回忌速夜法要 神戸須磨寺

●1月17日 法華宗阪神淡路大震災第二十三回忌法要 神戸本光院

●1月17日 法華宗東京教区新年会 於 銀座アスターお茶の水美術館

●1月24日 法華宗東京教区新年会 於 ホテルニューオータニ

●1月28日 本覚院日淳上人祥月忌 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

●1月28日 東京ブレイズクラブ新年会 於 グランドハイアット東京（六本木）

妙壽寺 2017 春夏スケジュール

3月20日(日) 春の彼岸中日法要

5月1日(日) 猿江稲荷大祭 (日程変更しました。)

7月16日(日) 孟蘭盆会施餓鬼法要

9月23日(土) 秋の彼岸法要

正隆会

【SHORYU-kai】

午後2時開催

月例講
ご案内

3月11日(土) 東日本大震災第七回忌・東京大空襲追悼会

4月8日(土) 勉強会「法華経の略要品」拝読-2-

5月13日(土) 勉強会「法華経の略要品」拝読-3-

6月9日(金) 課外活動 / 宮城県被災地第七回忌巡拝旅行

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人などでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

「すみだ北斎美術館」開館へ
“東あられ本舗”が地域活動

世界的な画家として評価の高い葛飾北斎の作品等を展示した「すみだ北斎美術館」が昨年11月、JR両国駅近くに開館。北斎ゆかりの地である北斎通りに明治43年創業した当山檀家・東あられ本舗小林俊介元会長は、北斎通りまちづくりの会長として建設推進に尽力されましたが、開館の10ヵ月前にご逝去。泉下で喜びのことと存じます。

つつじ
当山躑躅祭り

鍋島客殿と東洋苑（第二庫裏）の前庭を作庭いただいた元檀家世話人・故西澤義光氏の善行を記念して、毎年「つつじ観賞会」を開催しております。今年も開催いたしますので、ぜひお立ち寄りください。

日時：4月22日(土)・23日(日) 10:00-16:00

場所：鍋島客殿2階大広間、1階2室を開放

当山檀家・松本蔵氏作の「江戸鼈甲眼鏡枠」が切手に！
特殊切手
「伝統的工芸品シリーズ第5集」
(平成28年11月4日発売)



NIPPON

●1月30日 全日本仏教会新年会 於 ザ・プリンスパークタワー東京（芝公園）
●2月3日 正隆会節分会法要・豆まき・東日本大震災追悼写経会（写真）
●2月3日 麻布未来写真館 パネル展 鍋島客殿展示
港区麻布地区総合支所では、地区の昔の写真などを収集し、麻布の街の変化をパネル展開しています。麻布狸穴から移築した往時の鍋島客殿の写真が展示されました。
●2月5日 京都大本山妙蓮寺松下貫首本葬儀 雨上がりのなか、本門法華宗管長大本山妙蓮寺貫首松下日肆親下御本葬が肅やかに営まれました。
●2月10日 法華宗教学研究発表 第30回記念大会 東京国際フォーラムにて第30回記念大会が140余名の参加を得て、熱氣溢れるなか開催されました。

内藤昌平氏（元ルギー大使）・容子夫人②

聞き手 三吉廣明主人

平成28年10月20日於・恵比寿の内藤宅にて

イラン・イラク戦争下での命がけの生活

住職 カンボジアでは大変だったということでしたが、大使におなりになる前に外国に赴任されて、安全な国と危険なところを交互に行かれていたようにですね。

容子夫人 当時はそれが慣例でした。

住職 特に、イランですか。

内藤氏 はい。

住職 そのときにご自宅から800メートルの所にミサイルが飛んできて、ご主人が奥様たちをバリーに避難させたという話を聞いて、これはやっぱり誘拐されるのも大変ですが、ミサイルが飛んでくるのも大変だと思ったのですが。

内藤氏 まさしくそのとおりですね。命がけでしたね。それが私1人だけじゃなくて、家族全員命がけだったということですよ。その点は…。

容子夫人 イラン・イラク戦争の最後のほうでございましたね。

内藤氏 しかし、カンボジアは、もう子供たちはついてこれなかったですが…。

容子夫人 日本で高校と大学に行っておりま



▲駐デンマーク大使として信任状捧呈のため王宮到着

▲駐ベルギー大使として国王陛下への信任状捧呈



使っているらしいですね。そのミサイルというのは、当時最初のミサイルが来たとき、私はたまたま家でお客さんと呼んでディナーパーティーをやっていたのですが…。

容子夫人 やっていたのではなくて、やる準備をしていたところに落ちました。

内藤氏 まずミサイルが落ちたのはそうでしたね。でも、その晩中、実はミサイルの危険があったわけですよ。翌朝もまたミサイルが落ちてくるんですけど、幸い、そのときは家の近くには落ちなかった。でも、150発ですから、そのうちの1発が家の近くに落ちたわけですよ、その3カ月の間に。あれは2月29日に始まって3月の、2週間後ぐらいでしたね。

容子夫人 近くに落ちたのはね。

内藤氏 そのときは近くに落ちた反動で、次男は小学校の2年生でしたけれども、床から飛び上がったぐらいのショックがありましたね。ミサイルが直撃すれば、例えばこのマンションなんかは一発でほんと傾く。現にそれで病院が傾いたのを私は見にも行きましかれども。というような威力があるわけですよ。

ただ、テヘランというのは、ちょうど東京の山手線の内側ぐらいの広がりがあるものですから、そこどこに落ちてくるかわからないという…。

容子夫人 命中率が低かったんですね。

内藤氏 いや、低いといつても、600キロのかなたから飛んでくるわけですから。大阪より遠いところから、岡山のあたりから飛んでくるわけですよ。それで山手線の内側に当てるというのは、それはそれでなかなかの命中率なんですよ。

容子夫人 そうか。ピンポイントではないけれど。

内藤氏 それは、アメリカ軍の例のトマホークとか、そういうガイドドミサイルじゃないですけど、ボーンと出して…。でも、そういう意味じゃ北朝鮮だってそのぐらいのことではできるわけですよ。まあ、それはまたさておき、そういう実体験をするのは、パリから行っただけにその落差はすごかったです。

容子夫人 子供たちもパリ日本人学校からテヘランに日本人学校があるとは思わなかったんだけれども、やつとその情報がある、あるということがわかって、子供たち2人も一緒に、家族4人でパリからテヘランに赴任いたしました。

商社とか、とにかくみんな家族は、その戦争が始まる前は商社もたくさんあって、家族もいて、でしたけれども、戦争が始まって以降はみんな単身赴任の地になっていたから、子供たちの数は少なくて、大使館の子供と学校で教える先生の子供と、それから、本当に一部、特派員ですね、新聞記者の子供と、あと、会社に願って許してもらって、そして家族を帯同したという商社のお子さんで、小学校と中学校を合わせて全部で13人しかいなかった。うちの子供2人入れて13人しかいなかった。

だから、複式学級で。でも、学校が存在してなくて、先生がいまして、家族一緒に



左より、三吉住職、内藤氏、容子夫人

過ごせたから、それはとても貴重な、かけがえない経験になりました。

馬車での信任状捧呈
セレモニー

住職 また非常に印象的だったのは、儀典長をされて、接遇のときは常に奥様と一緒にされたということ、またベルギー、デンマークで大使をお務めになったときはどうだったのかなど。

日本に來られた大使を接遇するときに、大使は東京駅の車寄せのところから、馬車で行かれますか、車で行かれますかと聞かれ、大方は馬車をお選びになるというお話でした。

容子夫人 信任状捧呈ですね。

住職 そうです。皇居の松並木を通過して、天皇陛下にご挨拶をし、信任状をお渡しして、ここ初めて大使になるというお話を承ったときに、やはり国と国が付き合うというのはそれぐらいなこと、それがもし皇居が普通の庭とか普通のビルディングであつたら、それは大使たちが日本の歴史とか伝統というものを感ずるすべが違うのではということを感じました。

内藤氏 まあ、儀式、典礼ということで儀典というのになりますけど、そういうセレモニー的なものというのは、やはり、まあ、人間の一生もありますよね。節目節目にセレモニーがありますね。けじめをつけるといいますか、そういうものの最高レベルで国というものがそこで一つの権威と言っているのじゃないのか、存在感を示すためにはいろいろ演出が必要だということなのだろうと思います。人間はそういうものに心を打たれるとい

うことだと思えますね。

国というものが一つのユニットとして頑として存在して、それはもちろん国民によって成り立っているわけですから、そのトップにおられるのが天皇陛下ということになりますね。それに對して大使というのは、その背中に派遣国の全体の親愛の意を接受国に示す立場ですから、まあ、先週來られた国王が自ら乗り込んでこられれば、それこそトップですけれども、国王はそうしよつちゅうというわけにいかないから、大使というものが国王の名代として来ているわけですから、国の代表が相手国の最高の人いろいろなこれからお付き合いを、私が代表としてこの国におりますのでよろしくお願ひしますという形を目に見えるように演出するわけですね、それは重々しくすることによつて、やはりそれぞれの国が関係

を大切に考えているんだということの表れですよ。

そういう意味では、私がデンマークで信任状捧呈をしたときは、やはり馬車がお迎えに来て、それで、大貴族の1人が制服で、勲章もいっばいつけて、エスコートといいますが、接待で同じく馬車に乗って、王宮までの道すがらいろいろなお話をしながら行くようになっているんです。

ベルギーでは、将軍がエスコートしてくれましたが、あちらはみんなそれぞれ軍隊というのがありますから、その将軍がそういう役割を仰せつかわっているわけです。基本的には、ヨーロッパの王国はそういう古い儀式を伝統的に守っている国々ですから、そうやって馬車をやるということ。

日本も馬車を使うわけですが、馬車を引く馬は、これは警察の馬なんです。普通白い馬を使いますが、そうざらにいない馬です。この白い馬は、秋の交通安全週間とか、交通警察官がその馬に乗っているというセレモニーをやりますね。お子さんが喜ぶ、そちらの任務が主なんです。そうすると、いつも馬車のために待機しているわけにいかないので、馬車を選ばれる場合は馬が使えるときに限るわけです。

だから、お急ぎの場合は自動車というやむを得ないこともあるわけです。どうしても本格的に仕事を始めるためには、そうやって天皇陛下に信任状を捧呈しないと大使として公の活動ができないわけです。ですから、もうしよつちゅう。馬を待っていないといけないこと。自動車では皆さんがっかりされると思うのですが、やはり馬車で行かれたほうが…。

容子夫人 すてきですよ。さつきおっしゃった松の並木を通り、橋を渡って上っていくというのはやはり…。

住職 先ほど、ご主人がおっしゃった、やはり国民同士の触れ合い、交流というお話の中で、日本の文化とかスポーツでしょうか、ご自身もたしかテニスをよくおやりになるそうですね。文化やスポーツと外交ということの何かつながりといいますか、その辺はご自身のご趣味も含めていかがでございますか。

内藤氏 まあ、スポーツの交流と文化交流とはまたちよつと違うと思いますが、スポーツというのはやっぱりプレーをする人が中心になりますから。かつ、そこには勝ち負けという問題もありますしね。

でも、文化の場合は勝ち負けという問題ではなくて、それぞれの国の伝統が文化という形に凝縮されてくるわけですね。歌舞伎も才能もそうだけれども。それは、受け取る側にしてみれば、ただのエキゾティズムではなくて、やはりその背後に、その国の伝統というものはこういうものかということに触れる、いわばそれぞれの国の国民の心持ちに触れるチャンスですよ。文化交流というのは、やはり文化というものが国を代表するということの意味があると思いますね。

妙壽寺とのご縁

住職 そもそも奥様のご両親様は石和田家として、妙壽寺のお檀家です。奥様はお一人お嬢様ということで、ご先祖様をお守りいただいているということでございます。もともとは、お父様、お祖父様は政治家でいらしたと伺いました。

容子夫人 はい、そうですね。祖父、石和田八郎が…。

住職 八郎様がお祖父様。

容子夫人 はい。

住職 時代的に川島正次郎先生とご関係があったのですか。

容子夫人 お名前は伺っていますけれども、私、直接には存じ上げませんね。

住職 そうです。先々代（日照上人）の親友が川島正次郎先生（当山に墓所建立）です。当時、お祖父様は府会議員でしたか、市会議員でしたか。

容子夫人 何か当時は、府会と市会は同時にできた時代があったように聞いています。その後、都になるんだと思いますけれども。父は区会でございます。

住職 そうでございますか。

そういうことで、また今後ともいろいろとご指導願います。

最後になりますが、何かお寺にご要望されることは特段ございますか。

容子夫人 いや、もう十分やっていたいているのではないかと思いますけれども、**住職** ありがとうございます。本堂にいろいろ至らないことが多くて、少しずつでもお寺もきれいに整備をして、こういう文化事業も行っていきたいと思っております。

今日は本当に貴重な、また、すばらしいお話をたくさん聞かせていただきました。ありがとうございました。